

利用成果報告書

1 課題番号 R5-C13

2 報告者 張田 豊 東京大学医学部附属病院

3 利用区分 成果公開有償利用

4 利用課題名 腎尿細管機能の分子機序分析

5 使用装置名 共焦点顕微鏡 Leica SP8

6 利用期間 令和 5年 4月 1日 ~ 令和 6年 3月 31日

7 利用成果・実績の概要 共焦点顕微鏡を用いることにより、野生型マウス腎における胎仔期～成体期での新規腎尿細管遺伝子でコードされる蛋白の局在の変化、野生型マウス腎と作製した新規腎尿細管遺伝子改変マウス腎の形態学的変化、および下流遺伝子候補によりコードされる蛋白の発現量の変化を詳細に捉えることが出来た。現在、他の下流遺伝子候補の評価を行っている。

8 社会・経済への波及効果 新規腎尿細管遺伝子の機能を明らかにすることで、新規創薬に応用できる可能性がある。

9 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果(発表題目、口頭・ポスター発表の別)	発表者氏名	発表した場所(学会等名)	発表した時期	国内・外の別
Establishment of a novel mouse model of renal Fanconi syndrome	Takeshi Nagasawa	Asian Society for Pediatric Research	R5.11.1	web開催

10 学会誌・雑誌等における論文掲載 該当無し